

### 学生の自主活動への支援

## 本九祭の開催にあたって

第二十二回本九祭実行委員長

熊本大学医学部三年 緒方 啓仁

九月の秋晴れの中、私たちにとって初めての本九祭が開催されました。

第二十二回本九祭のテーマは、「Re: Birth」です。本九祭を新たに復活させるだけでなく、新たな一歩を地域の方々と共に踏み出そう、本九祭を開催する意義を再度考えようという意味合いも込められています。

私たち三年生が入学した年、ちょうど地震により本九祭が開催されず、私は残念だが仕方ないことだと諦めたのを覚えています。しかし、次の年もどういわけか本九祭は開催されませんでした。その時、医学部の中には本九祭をやりたいくないという論調が目立ち、一定数いた本九祭をやりたいという人も声をあげにくい状況にあったのです。それまでの本九祭を多大な負担に感じた上級生が開催を嫌がっていたのでしょうか。しかし、私たち三年生以下の学年は皆、本九祭を経験したことがありません。私は、なぜ楽しい面もあるはずの学園祭に対してそのような噂のみが立つのか、そしてなぜ本九祭を経験したことがないはずの三年生以下の学年もそれを真に受けるのか全くもってわかりませんでした。

私はたまたま問われることができました。

「二年やっていなかった本九祭は、どうしてもやらなければいけないものなのか」と。私は、本九祭は絶対にやらなければいけないものだと考えておりません。しかし、本九祭を取り巻く私たちの考え方が、あまりにも陰鬱としたものであり、この空気を変えたいと思ったのがきっかけの一つでした。本九祭が多大な負担であり、学生にとつてやりがいのない、ただ害をなすだけのものだという考えがあるなら、どうして誰も正式に廃止を求める運動を起こさないのでしょうか。そして、学生会のアンケート上で一定数いたはずの、本九祭をやりたいという声をどうして誰も実行に移そうとしないのでしょうか。私はここに大きな憤りを感じていました。

前回の実行委員長の言葉を借りるとすれば、やはり皆、意見は持っているものの当事者意識は全くなく、自分が矢面に立つ勇気もなく、安全なところからものを言っておきたいだけなのかもしれない。

そんな中、三年生の中に本九祭をやってみたい、今までやったことがないからやってみないとわからない、またはこの本九祭を変えてやる！といった気概に溢れた者や、奉仕の心をもった者が計三〇人集まり、第二十二回本九祭実行委員が発足しました。

運営は苦難の連続でした。三年ぶりということもあり、ほとんど初めて開催するに近いものがありました。ここでの大きな問題はやはり人手でした。やはり皆

学園祭を楽しそうとは思うものの、自分が労を買ってまで作りたいという考えは持っていないものです。ましてや、学生主体で行う三年ぶりの催事です。本当にやり遂げることができかわからないという猜疑心から実行委員に入らない者がいるのも頷けます。この人手という問題を解決しない限り、本九祭はいくら復活してもまた途絶えてしまうと考えます。実行委員が集まるべく、彼らが少しでも快適に運営ができ、そして彼らの活動自体を楽しむことができる状態をつくる必要があります。

広報、設営、開催時期などまだまだ反省点がありますが、今回の開催で改善できた点も多数ありました。その中の一つに、今回新たに取り組んだ、バザーの出店を外部（主に医学部周辺地域）から募るというものがあります。この取り組みによって商品の質を上げることだけにとどまらず、医学部生と地域とのつながりが生まれ、医学部生と地域の出店という負担も減るといふメリットも生まれました。ほかにも実行委員による多くの工夫によって本九祭は前回より改善されました。今後も変化を続けていくことで、時代や学生の生活に合ったより良い本九祭へと変わっていくことが期待されます。

終わってみて、この本九祭は絶対にやらなければいけないものか、と再度問われれば、私はやはり絶対そうだと答えられません。しかし、本九祭を開催することによってメリットは多く生まれるものだ、今回実感することができました。

閉鎖的な医学部という環境の中で新たな繋がりが生まれ、私たちの人間関係が少なからず流動的になり、外部の人々に私たちが普段学んでいる医学を伝えることができるこの本九祭を、やるべきものというよりは、やる価値、魅力にあふれたものと私は捉えます。

私たちと同じ考えでなくとも、私たち実行委員の作り上げたこの「つながりが繋がりを生む」本九祭に魅力を感じ、また新たな魅力を生み出さんとする者が現れることを願います。

最後に、今回の本九祭は様々な方のご協力なしには達成できませんでした。

とりわけ、私たち医学生への活動へ普段より深いご理解、ご協力をいただいたり、お喜びます肥後医育振興会様に感謝の念を述べ、この文の終わりとさせていただきます。



第22回本九祭実行委員（フィナーレにて）